

新潮社校閲部・部長

井上孝夫

絵・文とも

その日本語、

ヨロシイ

ですか？



新潮社

井上孝夫 (いのうえ・たかお)

1954 (昭和29) 年神奈川県生まれ。新潮社校閲部・部長。東京大学文学部言語学科卒業。著書に『世界中の言語を楽しく学ぶ』。漫画・イラストでは「にいがたマンガ大賞」第二回ストーリーマンガの部、第五回コママンガの部で各々最優秀作品賞、2002年読売新聞北陸支社「高橋尚子似顔絵展」最優秀賞、「沢の鶴4コマ漫画大賞」第四回大賞を受賞。本作でも漫画部分、本文ともに執筆を担当した。ブログは「スケッチ貯金箱」<http://blog.goo.ne.jp/sketchmoneybox>、「言語のある生活」<http://polyglotreader.blog109.fc2.com/>。



その日本語、ヨロシイですか？

発行 二〇一四年一月一日

著者 井上孝夫
いのうえ たかお

発行者 佐藤隆信

発行所 株式会社新潮社

〒162-8711 東京都新宿区矢来町71

電話 編集部 (〇三) 三二六六―五六一一

読者係 (〇三) 三二六六―五一一一

<http://www.shinchoshaco.jp>

印刷所 大日本印刷株式会社

製本所 株式会社大進堂

乱丁・落丁本は、ご面倒ですが小社読者係宛お送り下さい。送料小社負担にてお取替えいたします。
価格はカバーに表示しております。

目次

プロローグ 7

第一章 校閲よ、こんにちは 9

第二章 調べ方の調べ方 27

第三章 ルビは難しい ふりがな 47

第四章 嗚呼！ 漢字 69

第五章 仮名づかひ今昔 93





第六章 グローバル時代の翻訳 119

第七章 その日本語、間違ってます?! 145

第八章 その日本語、ヨロシイ?! 163

第九章 死語の世界 185

第十章 出版と日本語と校閲と 205

「吾輩は猫である」クイズ 24 65 141 182
「浦島太郎」旧仮名変換問題 114

新潮社校閲部・部長

井上孝夫

絵・文とも

その日本語、 ヨロシイ ですか？



新潮社

お知らせ

ほんだ こうた
本多幸太

あや えつこ
文悦子

右、新人二名

校閲部に配属します。

社長



目次

プロローグ 7

第一章 校閲よ、こんにちは 9

第二章 調べ方の調べ方 27

第三章 ルビは難しい ふりがな 47

第四章 嗚呼！ 漢字 69

第五章 仮名づかひ今昔 93





第六章 グローバル時代の翻訳 119

第七章 その日本語、間違ってます?! 145

第八章 その日本語、ヨロシイ?! 163

第九章 死語の世界 185

第十章 出版と日本語と校閲と 205

「吾輩は猫である」クイズ 24 65 141 182
「浦島太郎」旧仮名変換問題 114

4コマ成語・ことわざクイズ	89
漢字クイズ	88
イラスト・校閲の仕事	113
	140
	45
	91
	201
	221

4コマ名詩クイズ	161
死語？クイズ	203
校閲の実例	118
	181

やあ。
よく来たね。

校閲部へ

ようこそ。

校閲部長
三田 克治
み た かつし



プロローグ

日本語をめぐる、さまざまな本が出版されています。

現代日本語の乱れを嘆くもの、新しい言葉や用法を解説したもの、外国人の目から見た日本語、辞書の中からピックアップしたそれぞれの言葉への思いを語るもの。

みなさん、日本語が好きなんです。

ではその出版の現場で、日々日本語と格闘している校閲者から見た日本語はどう見えるのか？

そんな問い掛けから、この本は編まれました。

私たち校閲者は、大学教授や、辞書の編纂委員のような「日本語の研究者」ではありません。しかし、来る日も来る日も、日本語の文章の前に、ああだろうかこうだろうかと、絶えず悩み、思いを巡らせている「一般読者の先遣隊」であり、「言葉に対して素人であることのプロ」でもあります。このことは、本書を読み進めて行くうちに明らかになるでしょう。

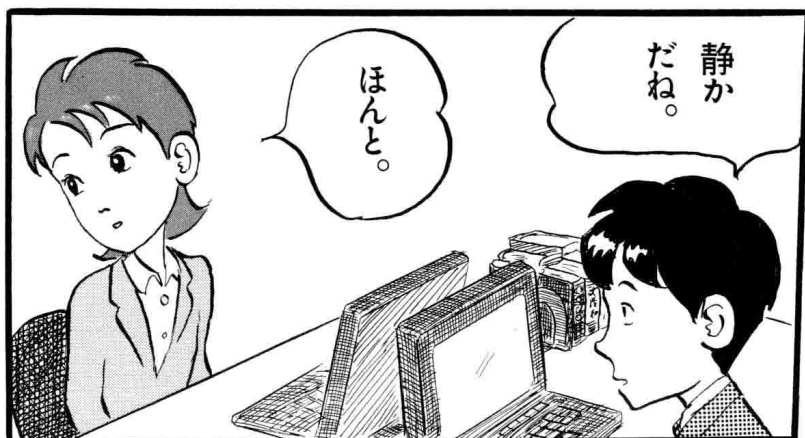
本書は、マンガと文章を混合させた形式を取っています。架空の出版社に入った校閲部新人の二人が、校閲という仕事に出会い成長していく姿を眺めつつ、校閲という仕事の中の日本語、それから校閲者の目に映る現代日本語へと話を進めて行きます。

その他に、旧仮名変換問題、4コママンガクイズ、漱石の「吾輩は猫である」クイズ、死語？クイズなども用意しました。

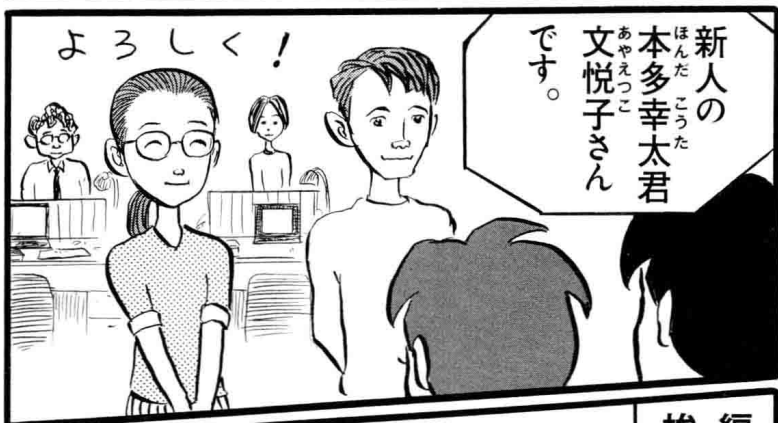
日本語を愛する皆さんに楽しんでいただけたら幸いです。

二〇一三年十二月 筆者

第一章 校閲よ、こんにちは









第一章 校閲よ、こんにちは

第一日目、コウタ君とエツコさん、さすがに疲れたようですね。

このマンガの中の出版社と同様、筆者の勤める新潮社校閲部でも、部内は静かですよ。

なにせ、一日中文字を見つめて読み込んでいる部署ですからね。仕方がないんです。気難しくて黙っているわけじゃありませんから。

●校閲って、なぜあるの？

さて皆さん。

本という形で世の中に届けられる日本語は、どんなプロセスでチェックされて書店に並ぶのでしょうか。

ブログやツイッターなどのウェブ上の多くの日本語は、基本的に書いた本人以外はノーチェックで世に発せられます。しかし出版される文章の日本語には、少なくとも出版社と名のつく所から出される本には、編集者という他者の目が通ります。

校閲という仕事は、本来、編集者の仕事の一部でした。いや、今でも多くの出版社に校閲専